

Heimat

ハイマート

ぐんま日独協会 会報 63号

発行日 2024年3月30日
発行者 鈴木克彬
発行所 ぐんま日独協会
〒371-0105
群馬県前橋市富士見町石井 2445-219
電話: 027-288-4297
E-mail: info@jdg-gunma.jp
ホームページ: jdg-gunma.jp/



「第9回ドイツフェスティバル in ぐんま」共愛学園中学・高校吹奏楽部の演奏

目次

1. 会長のことば	1
2. ドイツフェスティバル報告(事務局より)	2
3. 西ドイツ Humburg 駐在体験記(その2)	9
4. 日本司書が見たドイツ:ケルン日本文化会館の日々(その1)	16
5. 日本百名山 独訳 — 連載12	22
6. デザイナー修行奮闘記 — 連載21	27
7. 私の遠く過ぎ去った時代とドイツ(その1)	30
8. ChatGPT などの AI 利用の勧め落とし穴(その1)	32
9. お知らせあれこれ(ドイツ大使館、日独協会)	35
10. 編集後記	39

1. 赤字国債発行に対する日本とドイツの基本的な考え方の違い

会長 鈴木克彬

現在ドイツでは、日本で言われているような赤字国債は1ユーロも発行されていません。それはドイツの憲法である基本法によって禁止されているからです。その要因は第一次世界大戦後の極端なインフレ発生の痛みに鑑み、赤字国債発行は基本法で禁止されたのだと考えられます。

一方昨今の日本政府は、将来に、“悪しき負債のつけを残すのではないかと心配する程の赤字国債”を発行しているような気がしてなりません。そもそも赤字国債は、福田赳夫元総理が蔵相の昭和40年代、“将来、日本発展の基礎となる案件にのみ、その布石としての赤字国債発行を認めた”のが発端です。それが、子育て・教育・福祉等への補助等でも予備費・赤字国債が使われているように思われます。

ところが、皆様もご存知かも知れませんが、昨今のドイツでは国の財政状況が厳しくなり、農業トラクター団体への燃料補助金の削減等、緊縮財政の方向に進んでいます。そのため、ベルリンでも農業団体の激しいデモが発生していることが、日本でも報道されています。更に財政状況の悪化から道路への補修費、鉄道事業への整備・補助金等も削減傾向にあり、国の基幹設備及び産業等も相当痛んでいる状況と言われています。その結果、近々ドイツの政党間でも赤字国債発行の件が政党間・選挙のテーマになるのではないかとされています。難しい問題ですね・・・

鈴木が見て・感じた、ドイツ人気質

私は環境問題に関心があるため、ドイツへ行く度にドイツ各地区のごみ処理のシステムを見学しています。そしてその際に感ずることは、ごみを収集する作業者は、殆どが中近東系の人達で、ドイツ人は見かけません。それに対し日本は、暑い日も、寒い日も日本人が真面目にゴミを収集してくれています。この流れはトイレの清掃でも同じように感じました。日本人は職業に差別意識を殆ど持たない民族だと思えます。私は20年位前でしょうか、ドイツで発生した【アスパラガス戦争】という事象を思い出しました。ゲルマン民族はプライドが高い民族なのではないでしょうか・・・

注記 【アスパラガス戦争】とは、シュレーダー政権時の論争。

アスパラガスの掘り出し作業は、根が深いため過酷な作業となる、と言われています。

そのためドイツで多くの作業員がその作業を嫌い、失業保険を得ようとした。

・・・政権側と作業員側との闘い・・・



2. 「第9回ドイツフェスティバル in ぐんま」が開催されました

「第9回ドイツフェスティバル in ぐんま」が4年ぶりに、2023年10月21日(土)・22日(日)の二日間、群馬県庁1階県民ホールと屋外県民広場で素晴らしい秋空の下、盛況のうちに開催されました。群馬県内はもちろん、県外遠くからも来訪もあり、多くの皆様のご来場に感謝いたします。

パネル展示



今回のフェスティバルテーマは、「ひとあし早いあなたとドイツのクリスマス」でした。キリスト教文化に根付いたクリスマス行事は、ドイツでは1年で最も重要なイベントです。私たちが日本で年末に楽しむクリスマスと何が違うのかを紐解いて、ドイツのクリスマスの歴史や各地で行われるクリスマスマーケットなど、私たち日本での正月と同様、古くて深い歴史から食に至るまで、来場者の皆さまに理解しやすいビジュアルでパネル展示にしました。



会員の持ち寄ったクリスマスグッズ

ドイツ各地のクリスマスマーケットの様子をパネルにて展示、来場者の方々はこれらの華やかなクリスマスの雰囲気を楽しんでくださいました。

ステージプログラム

<参加して下さった団体>

☆前橋市フォークダンス協会

☆共愛学園中学・高等学校吹奏楽部

(指揮:星野雄亮)

☆コール・詩音(指揮:原鏡)

☆コール・ブルーエ(指揮:深澤節子)

☆境アドーディオンサークル

☆群馬メサイアソサイエティ

(指揮:吉田秀文)

☆トロンボーントリオ

(丸山明日香、金子美優、市村信持)

☆弦楽二重奏(Vn 真塩裕子、小田原由

美、伴奏:小畑輝代)



ステージでは、中学生からご高齢の方まで、全ての世代でドイツのクリスマス音楽をテーマに様々な演奏をご披露くださいました。曲目はクリスマスそしてドイツに関連のある物が中心になりました。

ドイツサロン オンデマンド

「ドイツのクリスマス紹介(Theo Pach)」

「ドイツ料理紹介(Henrik Sudenfeld)」

ステージでオンデマンド形式で行われたドイツ人モデレータによるドイツのクリスマス解説。また、ドイツからドイツの若者が日本語で「ドイツのクリスマス」と「クリスマス料理」についてビデオ・オンデマンド形式でレクチャーしました。



手作りテディベア展示

クマさん作りの会の皆さんが心を込めて作ったテディベアが勢ぞろい、子供さんたちが欲しがり、売って欲しいという声が数多く聞こえました。



会員の皆さんは次回は販売できるベアも準備しようと話していました。

ドイツ大使館主催絵画コンテスト「私のドイツ」応募作品展示 テーマ『未来のドイツ』

2022年の絵画コンテストに約90点の小学生の作品を大使館へ送り、審査を経て戻ってきた作品を多くの人に見ていただきたいと思い、ここに展示しました。当日は保護者と同伴で来場してくれた小学生の皆さんが自分の作品と一緒に写真撮影をしている姿が目立ちました。楽しい風景でした。



メルクリン H0 鉄道模型実演

メルクリンがクリスマス仕様の蒸気機関車を開発、汽笛でクリスマスソングを奏でながら会場を走りました。子供たちに人気があり、何時までも飽くことなく眺めていた姿が印象的でした。



ドイツ輸入車展示販売

(Mercedes Benz, BMW, Volkswagen, PORSCHE, AUDI)

秋空の中、ドイツ輸入車各社の最新モデルが勢揃いしました。車に関心をもつ人達は一緒に写真に納まって、ご満悦な表情でした。



出店店舗

黒田人形店

クリスマス関連アイテムやボードゲームなどドイツの家庭で楽しむ遊びを紹介し、多くの来場者の関心を引いていました。



黒田人形店・黒田桂子さんの感想

「パネル展や映像でドイツのクリスマスを紹介いただいた影響と時期も良く、多くの皆様にアドベントカレンダーや手工芸品などお買い上げいただきました。春にはオーダーを掛けましたが、世界情勢の影響でやっと開催の週に入荷という状況ではありましたが、新作を手渡すことができ、皆様に大変喜んでいただけました。ドイツ文化や音楽など、他のブースも賑やかで大盛況でしたね。ご協力いただきました会員の皆様に感謝申し上げます。」

南雲時計店 ドイツ時計を販売する南雲時計店さま

「こんにちは。南雲達也です。」

第9回、「ドイツフェスティバル in ぐんま」に、ドイツの時計屋さんとして出店しました。僕の感想を書かせていただきますね。もう先に言いたい事をズバンッと書きます。それは・・・第9回、ドイツフェスティバル in ぐんま【大成功でした。】

2年後の2025年のドイツフェスティバルが今からすっごく楽しみでワクワクしています。

個人的には世の中の人はまだまだコロナを心配して人が集まる所には出掛けてくれないのではないかと心配をしておりました。しかし、始まってみればそんな心配は何にもなくコロナ前と変わらない人出で、すっごく賑わって感動しました。

僕の時計販売のお隣りの黒田人形店さんのおもちゃも仲沢酒店さんのビールなども、どんどん売れていてたくさんの方々にドイツの文化やモノに触れていただけて嬉しかったです。

ですので、コロナ明けて人が来てくれるか心配でしたが蓋を開けてみたらそれは【大成功でした。】

ご協力をいただきました会員のみなさま本当にありがとうございました。また、2025年も盛りあげていきましょう！」



HÜTTE HAYASHI

HÜTTE HAYASHI さんでは、お土産用ハム・ソーセージ他、その場で食べられるヴァイス・ヴルスト（白ソーセージ）なども用意して多くの来場者に喜ばれていました

とんとん広場社長・林智弘さんの感想

「本場のドイツを知るお客様はもちろん、気軽にドイツの文化や食に触れたいたくさんの方が、私たち

のハム・ソーセージを求めてくれ、楽しみながらイベントを過ごせました。ドイツで修業した私としても、ドイツの食を伝えられることを、本当にうれしく思います。良い機会を下さり、本当にありがとうございました。」



仲澤酒店

ドイツワインとドイツビールを取り揃えていただきました。県庁県民ホールでは、イベントでの飲酒は禁止されていましたが、今回のドイツフェスティバルから解禁になりました。

仲澤酒店・関淑恵さんの感想

「4年振りのドイツ祭りは、大盛況で沢山のお客様にご来場いただきました。有難うございました。

仲澤酒店では、ドイツのビールを始め、ドイツのワインやお菓子を少し販売させて頂きました。ドイツと言えばビール!特に白ビールの人気は高く、ボック、エールなどもお買い求め頂きました。また、今回は、テイスティング OK とのことで、お昼にソーセージな

どと一緒にビールやワインを提供することが出来て、楽しい雰囲気になりました。



陶豆屋 ドイツの高級紅茶ロンネフェルト紅茶を扱う日本で数少ない専門店陶豆屋さんでは各種フレーバーティーを取り揃えています。

店長・鈴木剛一郎さんの感想

「久しぶりの「ぐんまドイツフェス」来場者が少ないのかなーっと思いきや、とんでもない来場数!とても来場数をカウントできない!嬉しい悲鳴!それだけ皆さん楽しみにしていたのですね。

いつもは蒸し暑い7月頃の開催でしたが、今回は会場スケジュールの都合上10月開催、テーマは「ひと足早いあなたとドイツのクリスマス」、皆さんのご協力で開催はクリスマスモードに!

秋の爽やかな気候とドイツのクリスマス、最高のドイツフェスが出来ました。今後も秋の涼しい時期の開催がいいかなーって思ってます。鈴木会長には、お茶とクッキーが楽しめるようにして欲しいとのお達しでしたが、あまりにも来場者が多く、お茶の準備はしていたものの最後まで1回も入れることが出来ませんでした。鈴木会長ゴメンナサイ!」



ミルハウス

ドイツアクセサリーのミルハウスさま
バラエティに富んだ品揃えて女性方の視線を惹きつけていました。



ベッカライ ウラノ

21日のみ出店した長野の有名なベッカライウラノさんによるドイツパン。長蛇の列ができて午前中には売り切れてしまいました

ベッカライ ウラノ・浦野里美さんの感想

「以前からドイツフェスティバルには参加させていただいており、今回自分の商品を売る機会をいただき大変楽しみにしていました。

ただ長野からの出店ということで、ほとんど知名度のない群馬での販売に不安もありました。

しかしそれも杞憂に終わり、結果大変多くの方にご来場いただき無事完売となりました。

心残りとしては、もっとパンを多く焼いてくれればよかった事でしょうか。

この度の皆様の万全の準備、ご協力に深く感謝申し上げます。



シュバイン

22日は、高崎の Schwein (シュヴァイン) さんが、とことんこだわり抜いたドイツパンを用意。

この日のために準備したパンはすぐに売り切れ。追加分もあつという間になくなってしまいました。



シュヴァイン 店長・富田順司さんの感想

「群馬県庁で行なわれたドイツフェスティバルに出店させていただいたシュヴァインです。皆さんから熱心なお誘いをいただき、少量でも焼けるだけで構わないとの事で出品決めました。お陰様でパンは完売、シュトレンも10月にもかかわらず完売しました。販売スタッフも協会の方で対応してもらい大変感謝しております。本当にありがとうございました。」

ドイツパン・菓子勉強会 沢山のシュトレンをご用意いただきました。

代表・高木宏直さんの感想

「ドイツのパンやお菓子は、見た目や印象が地味なものが多く、フランスに引け目を感じてしまいます。しかし、クリスマスに関しては、シュトレンの認知度が年末増ってきていて、冬の主役になっています。

歴史的な背景にキリスト教があったり、ドイツの本場のものより、日本人向けに、どんどんリッチな配合になっていたりするけど、ドイツを身近に感じるきっかけになればいいなと思います。

今回、新しい企画に賛同して頂き、ありがとうございました。また、2日間 販売の手伝いを元気にして頂いた会員の方達にも感謝致します。皆様お疲れさまでした!」



3. 西ドイツ・Hamburg 駐在体験記(その2)

杉本隆雄 会員

【EU その起源と汎 Europa オイローパ主義】

ドイツやヨーロッパを論じる上で外せないのが EU でしょう。
その発足からの経緯を辿ってみたいと思います。



EU 駐日代表部による定義は以下の通りです。

【先ず欧州連合 EU とは、独特な経済的及び政治的協力関係を持つ民主主義国家の集まりです。EU 加盟国はみな主権国家であるが、その主権の一部を他の機構に譲るという世界で他に類を見ない仕組みに基く共同体を作っています。現在27か国が加盟しています。】



第二次世界大戦はドイツが1945年5月8日に敗戦で終了しました。先ず、ウインストン・チャーチルが、もう戦争はしたくないという気持ちで、1946年9月16日にスイスでヨーロッパ合衆国構想を発表したとのことです。ドイツとフランスは何回も戦争を繰り返した歴史があります。そこで、この二つの国が二度と戦争を繰り返さないためにという意向で1952年に「欧州石炭鉄鋼共同体 Europe Coal and Steel Community ECSC」が発足しました。

構成国はドイツ、フランス、イタリー、BENELUX3国の合計6か国です。

この結成の目的はフランス国境に近い西ドイツのルール地方とザール地方の石炭や鉄鉱石の資源と工業施設を隣接する各国で共同管理することでドイツ・フランス間の軍事的対立を回避できるだろうとの目的だったとのことです。更に、詳細は省きますが、欧州原子力共同体と欧州経済共同体が合体し、これが今日の EC の起源です。

但し、この ECSC 設立の時、英国はこのルールやザール地方で資源が一元管理されると自国の産業には不利であるとの理由で、この結成には反対だったそうです。

英国は1960年に自ら主導して Austria, Sweden, Switzerland, Denmark, Norway, Portugal 等7か国で EFTA (欧州自由貿易連合) を作りましたが、1973年に Denmark と共に脱退して EC に加盟しました。

然し、2016年の国民投票の結果、2020年12月31日午後11時に英国の EU 脱退が正式に完了し

ました。=BREXIT (Britain Exit → BREXIT)と呼ばれていました。

英国の EU 離脱の背景:簡略化して申し上げます。

- ・EU への拠出金の負担
- ・EU からの移民の急増
- ・EU 法による自国主権の侵害



どうも英国と EU は相性が悪いようです。島国で欧州とは離れていることと、Great Britain の great が鼻に掛かっているとでもいうか、我が大英帝国が欧州大陸主体の EU 官僚に支配されるのは嫌だとの国民感情があったと言われております。

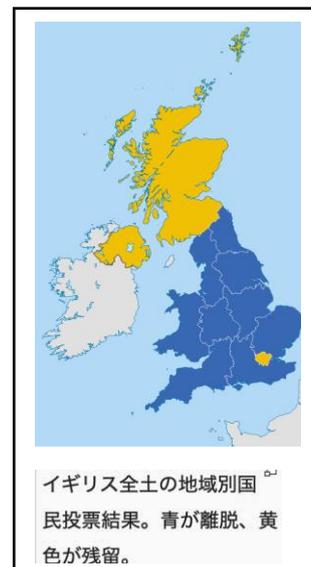
EU 離脱によって英国と EU が蒙る経済的な負の影響は英国に対する方が大きいとの評価があります。

BREXIT の投票について付言します。

英国の国民投票日 2016年6月23日 投票率 71.2%

離脱賛成派 16,141,241人……51.9%

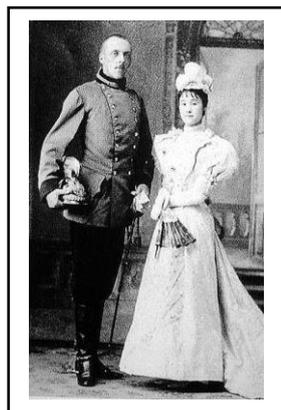
残留賛成派 17,414,742人……48.1% その差は3.8%



最近、英国は TPP に加盟したいとの意向を表明、これは2023年7月16日に正式に承認されました。英国の加盟で日本からの輸出ではコメなどで恩恵を期待できる。

既存の日英経済協定(EPA)で関税の引き下げの対象になっていた精米は TPP を通じて撤廃される。因みに2022年度の対英国日本米輸出数量は500トンでした。

(2023.07.16.日本経済新聞)



ところで、この欧州統合の思想の背景に日本人が関与していることを、私は印象深く思っておりました。その人は、リヒャルト・ニコラウス・栄次郎・クーデンホーフ・カレルギーです。

ウーン大学で哲学と歴史を修めた後、リヒャルトは1923年に『パン・オイローパ』を発刊して独自の欧州統合論を展開し、その名が知られるようになりました。リヒャルトは1894年明治 27 年東京生まれ、1972年昭和47年没の人です。父親は、当時存在していたオーストリア=ハンガリー帝国 (1867年~1918年の間に存在した) の代理公使として日本に赴任していたハインリッヒ・クーデンホーフ、母親は青山ミツという日本人です。

二人は東京で知り合い結婚、子供は合計7人でしたが、最初の二人は日本生まれ、後の5人はチェコに帰任してから生まれたと言われております。

現在のEUの思想的根幹には日本人の血と叡智が入っていたというのは日本人として意識していても良いのではないかというのが私の想いです。

【Potsdam 会談 Yalta 会談そして原子爆弾】

ポツダム宣言が協議されたベルリン郊外の Potsdam にも行って参りました。

開催場所 Berlin から約30km のところにある Potsdam 会議場



Schloss Cecilienhof これは1917年に完成した、当時のドイツ帝国皇太子であった Wilhelm von Preußen のためにドイツ皇帝 Wilhelm II が建設したものだとのことです。

何マルクかの入場料を払って入場すると会議場の場面が展開されます。

Potsdam 会談の期間は1945年7月26日～8月2日の間でした。

会議場には、ここに誰が座ったとの説明付きでソファが置かれていました。

それを見ると、ここで彼らが日本に対する無条件降伏の最後通牒を協議したのかと思い、ムラムラとするものを感じ、祖国に対する愛情を新たにしました。



ポツダム会談参加者：

*アメリカ大統領・トルーマン

(前大統領ルーズベルトは同年4月12日没)

*イギリス首相・アトリー労働党党首

(チャーチルは保守党が破れて党首辞任、

7月26日まで)

*ソ連・スターリン書記長

以上の3名で日本に対する無条件降伏を協議しました。

その会談の最中、7月17日、トルーマンに本国からメモが届けられました。

メモには“Babies satisfactory born”と書いてありました。トルーマンはそれをチャーチルには見せたそうです。(7月26日までは首相であった)これはアメリカが原子爆弾の実験に成功したとの意味でした。其の時、トルーマンとチャーチルは、これでソ連の力を借りなくても日本を降伏させられると確信したそうです。トルーマンがスターリンにこのことを伝えたのは1週間遅れの7月24日だったそうです。

其の時スターリンは特に表情は変えなかったと書いてある文章があります。

ソ連のスターリンはポツダム会談には参加していましたが、この時点では日ソ不可侵条約が有効で、日本とは交戦状態でなかったため署名には参加しなかったのです。代わりに、中国の蒋介石の同意を得てポツダム宣言には、トルーマン、アトリー、蒋介石の3人が署名しています。

何故スターリンは署名しなかったのか、これは後でご説明します。



ポツダム会談での議題:

●ドイツの戦後処理方針(結果として英米仏ソに依る4か国分割支配)

●日本への無条件降伏の勧告と戦後処理方針

ここで、私がどうしても切り離せないのが、同じ年1945年2月4日~7日まで、クリミア半島ヤルタで開催されたヤルタ会談の事です。

開催時期:1945年2月4日~7日

ヤルタ会談参加者:

*アメリカ大統領・フランクリン ルーズベルト

*イギリス首相・チャーチル

*ソ連書記長・スターリン

このヤルタ会談で、ドイツの敗戦後3か月目にロシアが日本に侵攻するという秘密協定が、すでにこの場で締結されていたという事です。ドイツの敗戦は1945年5月8日、そのぴったり3ヶ月目の8月8日に、ソ連は日ソ不可侵条約の破棄を通告、満州と朝鮮に侵攻を始めました。

そして、余談ですが私が興味を持っていることは、ソ連に対日参戦を促したのはルーズベルトですが、其の時スターリンは何と反応したのでしょうか。

「いや、ルーズベルトさん、私達ロシアは日本とは不可侵条約があるので、それは辞退します」と言った

かどうか? 「それともシメシと話に乗ったのか? 」

あのロシアの事ですので、私にはとても興味があります。皆さん、どうお思いますか?

実際は、ソ連は、このルーズベルトからの提案に対し、ドイツの戦後体制がはっきりしてから決めるとのことだったそうですが、実際に対日侵攻を決めたのは7月15日だそうです。

2月のヤルタ会談から、ソ連が侵攻してくるまで、日本はその秘密協定を見破る諜報力も無く、その相手に講和の仲介を依頼しようと思っていなかったのです。

しかも、トルーマンは、日本が不可侵条約締結国であるロシアを講和の仲介国に使うであろうと既に読んでいたというのです。その可能性を日本に持たせておくためにポツダム宣言にはロシアに署名させなかったという記事があります。

何とも残念な日本の諜報力です。

今年、2023年8月7日 NHK のテレビ放送を参照します。

昭和天皇に国際情勢をご進講する役目の外務省出身宮内庁御用係の松田道一氏は1945年6月22日のご進講で「講和の道は無いのか」との陛下ご下問に対して、ロシアを介してトルーマンとの会見も出来るのではないかと話したことが記録されております。今思うと、之ほどの立場の人ですら、ヤルタ会談での秘密協定のことを知らないでいたのです。

日本の諜報力に愕然と致します。

●ポツダム宣言の「無条件降伏」に対する日本の対応:

- ・1945年7月26日に突き付けられた
- ・その宣言を知った日本政府首脳部は、戦争継続は困難という見方もあった
- ・ソ連を介しての講和も望みがあるので静観すべきとの判断もあった
- ・特使派遣の考えもあった
- ・当時の鈴木貫太郎首相は軍の意向もあり「黙殺する」という声明を発表
- ・海外向け電報は黙殺が reject と解釈された
- ・連合国側に「拒否」と受け取られ、原爆投下に踏み切らせる口実を与えたとされているが……。

8月8日ソ連からの不可侵条約破棄、宣戦布告を受けて最早勝ち味は無いと判断した鈴木貫太郎は8月14日の御前会議で昭和天皇の裁可を仰ぎポツダム宣言の受諾を最終的に決定しました。

1945年8月15日の玉音放送で日本の戦争は終わりました。

日本の終戦は殆どの資料が上記の様な次第で締められております。私もこの項はこれで終わりにしようかと思っておりましたところ、多くの資料の中で次のような資料を見つけましたので補足致します。

要点のみ箇条書き、

出所は2017年1月15日付産経新聞社・渡辺浩さんという記者の記事を引用させていただきます。

「最初から落とすつもりだった原爆、相手が日本人だから大量虐殺」という記事

- 我が国の一部には「日本が侵略戦争を行い、ポツダム宣言を黙殺したから原爆を落とされたという原爆容認論がある。
- 米国民の多くは原爆投下によって終戦を早め本土決戦で犠牲になるはずの100万人の米兵の命が救われたとの原爆神話、早期終戦、人命救済を信じています。(日本人の命も)
- この日本への原爆投下について、後に共和党の大統領になったアイゼンハワーや陸海軍の将軍たち、マッカーサー等は反対意見を具申ししていた。
- 第33代アメリカ合衆国 Harry Truman, トルーマンは1884年ミズーリー州の家畜業者の長男として出生、1901年に高校卒業、その後銀行の事務職、洋品店を開業したが失敗、1906年に父親と手伝うため就農した。トルーマンは大学卒業以上の学歴を持たない最期の大統領となつたと言われている。副大統領就任後83日でルーズベルトの死去(1945年4月12日)により大統領に昇格した。外交には全く未経験で側近に頼ることが多かったが、決断力を誇示して、ためらわずに政策決定を行った。(政治学者・袖井林次郎記)
- 日本の原爆容認論、米国の原爆正当化論はどちらもとんでもない話だ。ルーズベルトは真珠湾攻撃の2か月前、1941年10月に原爆の開発を決断、翌年原爆開発のマンハッタン計画に発展。1944年9月ルーズベルトと英首相チャーチルは、原爆が完成したら日本人に対して使うとの「ハイドパーク協定」で合意していた。
- ポツダム宣言が発表されたのは1945年7月26日、トルーマンは前日25日に広島、小倉、新潟、長崎のいずれかの都市に8月3日頃目視可能な天候の日特殊爆弾を投下する。追加分も準備が整い次第、前記目標に投下せよとの命令を発していた。

- トルーマンは広島に原爆が投下された時、ポツダム会談を終えて巡洋艦オーガスタで帰国する途中だった。将校から「原爆投成功」のメモを見せられると飛び上がって喜び「歴史上最も大きな出来事だ」と言ったそうです。
- 原爆投下を受けて、全米キリスト教会連邦協議会の事務総長はトルーマンに「多くのキリスト教徒がこの無差別破壊に動揺している」と電報を送った。トルーマンからはこう返信された。「獣を相手にする時、あなたはそれを獣として扱わなければならない、大変残念だがそれでも真実だ」
- 戦後も後悔していない、全く心が痛まない」と繰り返した。1958年の CBS 番組で、「道義上の問題があるので決定は難しかったのではないか」と問われると、「とんでもない、こんな調子で決めたいよ」とボーイを呼ぶように指をパチンと鳴らしました。

以上でこの体験記を閉じます。ご清聴有難うございました。

参考文献:

ウィキペディア、ドイツ大使館領事館文献、日本外務省、ドイツ外務省
 ミツコ・クーデンホーフカレルギーの生涯、EU の機構、EU の歴史、世界史の窓、
 世界史用語解説、NHK スペシャル「昭和天皇ご進講メモ松田道一、袖井林次郎氏文献、
 産経新聞・渡辺浩、政治学者鳥井、日本経済新聞、世界史用語解説、
 ジャパンナレッジ・オンライン辞書、日本大百科全書ニッポニカ・ポツダム宣言、トルーマン、
 ブリタニカ国際大百科事典マイペディア、駐日 EU 代表部・村木さん文章等

以上は、2023年7月2日（土曜日）13:00時から 1 時間、及び2023年9月2日（土曜日）
 14:00～2 時間、ぐんま日独協会サロン、ZOOM on line で口述しました。

4. 日本専門司書が見たドイツ:ケルン日本文化会館の日々(その1)

蓮沼龍子会員

ぐんま日独協会からサロンで話をしてほしいと依頼があり、仕事の話しかできないと申しあげましたところ、それでも良いと言われ、このようなテーマでお引き受けすることになりました。私の仕事はケルンにある日本文化会館の図書館でドイツ在住の方々に日本情報を提供することでした。図書館活動にあまり興味のない方には退屈な話かもしれませんが、少しお付き合いいただくと幸いです。

自己紹介

私は横浜で生まれたのですが、父の転勤で前橋市元総社町に転入し、その後、勢多郡富士見村時沢に引っ越しました。大学時代は東京に住み、学業を終えてから、一時期は館林にある関東短期大学松平記念図書館に勤務したことがあったものの、群馬との繋がりがほぼ途絶えていた状態でした。しかし2023年3月末に年金受給年齢に達し、家族の事情により前橋へUターンしてきました。

いつも聞かれるのは「なぜドイツへ行ったのか」です。簡単に言うと、ドイツに仕事があったから、なのですが、元々海外志向はありました。それで青年海外協力隊司書隊員としてホンジュラスへの派遣が叶い、その後はずっと日本で生きていくと決意したのですが、次第にまたどこか海外で働きたいと思っていた時に、「図書館雑誌」という日本の図書館専門誌に掲載されていたケルン日本文化会館の司書募集を見つけたという訳です。ドイツ語もろくに話せないのに外国人労働者として働くのは時折困難がありましたが、その都度、同僚や友人の支えがあり、定年まで勤務することができました。

ドイツにおける「日本専門司書」

「日本専門司書」とは日本ではほとんど使われない職名であり、日本以外でもあまり使われません。「司書」というのは通常司書課程を修了すると資格が与えられます。医者と違って免許ではないので、図書館に勤務するすべての方が司書資格保持者ではないのが現状ですが、図書館に専門職である司書が配置された方が有意義なサービス提供が可能です。司書の専門性は利用者サービス、分類目録など業務によって高められていくのですが、それ以外に主題別、例えば医学分野、社会科学分野、音楽分野などそれぞれのテーマを決めて専門性を高めます。日本専門司書は簡単に言えば、日本学 Japanologie に関する資料を探して提供することを専門としています。日本では京都にある大学共同利用機関国際日本文化研究センター(日文研)に勤務する司書が「日本専門司書」と言えます。

日本専門司書になるには次の4つの条件が挙げられます。(1) 司書資格があること、(2) 少なくとも日本語資料のタイトルや目次くらいは読める日本語能力、(3) 一般教養レベルでもよいのですが日本に関する知識、(4) 日本学の外国人学生や研究者のために外国語で応対ができることです。現状では、キャリア・スタート時点でこの4つの条件に適合した方はそんなに多くありません。しかし、仕事を続けていく上で条件をクリアできるようになればよいと判断されます。

日本資料を 所蔵している 主な図書館

総合図書館
ベルリン、ミュンヘン

文化施設
ベルリン、デュッセルドルフ、ケルン

大学図書館
ポツダム、ボン、デュッセルドルフ、デュースブルク、フランクフルト、ハイデルベルク、ハンブルク、ケルン、ライプツィヒ、ミュンヘン、チュービンゲン、など

<https://japan-bibliotheken.staatsbibliothek-berlin.de/verzeichnis-japan-bibliotheken/>

ドイツで日本資料を所蔵している図書館はベルリン国立図書館のような大規模図書館から中小規模図書館まで含めると欧州各国と比べて数多くありますが、それらの図書館に日本専門司書が配置されているとは限りません。例えば、日本語文献 9 万冊、写本 100 点を所蔵しているミュンヘン州立図書館では嘗て日本専門司書が配置されていたのですが、その司書が退職後空席になったままです(2023 年 3 月現在)。

ドイツにある日本関係資料は、図書館の場合 *Karlsruher Virtueller Katalog* (<https://kvk.bibliothek.kit.edu>)、雑誌の場合 *Zeitschriftendatenbank* (<https://zdb-katalog.de>)で日本からインターネットで検索することができます。これらの目録データベースは、日本語タイトル・著者をローマ字のみで表記していましたが、最近刊行された資料は検索結果に日本語オリジナル表記が出てくるようになりました。ケルン日本文化会館の所蔵資料もこのデータベースに登録されています。

日本専門司書のドイツ語圏の集まりとして、*Arbeitskreis Japan-Bibliotheken* (日本資料図書館連絡会 <https://japan-bibliotheken.staatsbibliothek-berlin.de/>)があります。1995年にケルンで設立され、コロナ禍前までは会議を年 2 回行い、メーリングリストで情報を交換し、専門性を高めるために過去何回か研修を実施しました。

英国にも同じような日本専門司書の集まり *Japan Library Group (UK)*があり、日本資料を扱う日本学関係者たちが情報交換を行い、相互協力を行っています。

ケルン日本文化会館とは



ケルン日本文化会館 *Japanisches Kulturinstitut* は1969年に文化交流機関として開設されました (<https://co.jpf.go.jp/>)。「ケルン」と言っても日本人にはあまり知名度が高くないようですから、まずケルンについて少しご紹介します。

ドイツの西にあるケルンはオランダ、ベルギー国境に近く、ノルトライン・ヴェストファーレン州の州都デュッセルドルフと旧西ドイツの首都だったボンの間に位置し、ベルリン、ハンブルク、ミュンヘンに次ぐ人口約 100 万人の都市です。ケルンはローマ帝国時代(紀元 50 年)に植民地として建設され、皇帝クラウディウスの妻アグリッピーナの名前を冠して *Colonia Agrippina* と言われた古い歴史を持ち、1963 年から京都と

姉妹都市提携を結んでいます。



ところで、ケルンの属するノルトライン・ヴェストファーレン州とは、紋章からもわかるように北ライン地方、西ファーレン地方とリッペが一つになった州で、ルール工業地帯を抱えたドイツでも有数の工業・経済地域です。この紋章には川、馬、リッペのバラの花が描かれており、そのまま前橋の紋章にしても通じるのではないかと思います。



一方、ケルンの正式な紋章はプロイセンの鷲がモチーフとなっています。



この正式な紋章よりもよく使われるのが、鷲の心臓部にある紋章です。赤と白はハンザ同盟の都市に使われる色で、ケルンが嘗てハンザ同盟に属していたことを示しています。上にある3つの王冠は、キリスト誕生後に東方から来た三博士の冠を表しています。この三博士の遺骨が金の聖櫃に納められ、大聖堂の祭壇奥に祀られています。キリスト教カトリックの世界では、ケルンは8世紀に大司教座が置かれた宗教の重要な拠点の一つでした。下の方にある11個のおたまじゃくしのようなものは涙 Träne と呼ばれています。これは聖女 Ursula たち11人が殉教したことを涙として表していますが、別の説では、フン族により1万1千人とか11万人が殉教した血とも言われています。キリスト教では「11」は、モーゼの十戒とキリスト12使徒の間の数字として異教的な一種独特の意味があると考えられているようです。それだからでしょうか、ケルンやデュッセルドルフではカーニバル開始は11月11日午前11時11分であり、クリスマスを超して Rosenmontag にはまるでキリスト教徒とは思えないとんでもないバカ騒ぎが行われます。

ケルンでサッカーと言えば Bundesliga の 1.FC Köln があり、1970年代には奥寺康彦、2010年代には大迫勇也が活躍しました。今年はサッカー欧州選手権(Uefa Euro Cup)が開催され、ケルン・スタジアムにおいても試合が行われます。

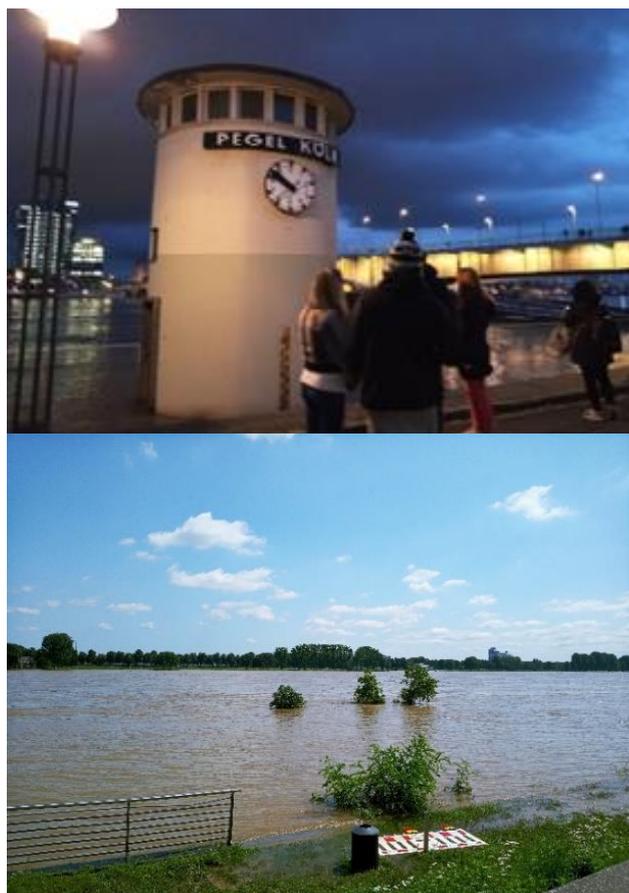
その他にケルンはオーデコロンの発祥地として、Kölnisches Wasser つまりケルンの水が有名であり、ケルンのもう一つの水、Kölsch ビールも Das Wasser としてご存じの方は多いと思います。

個人的にはケルンというとライン河に思い入れがあります。というのもライン河沿いには遊歩道があり、広々としてリフレッシュできるからです。特にコロナ禍で行動制限があった時によく散歩し、ロッ



クダウンの時にもライン河を大型船舶がたくさんのコンテナを運んでいるのを見ては、物資が動いて

いるのだから生活は大丈夫と自分を慰めたものです。



そのライン河は気候温暖化からか、何年かに一度、冬になると Hochwasser、つまり水位が上がって川から水が溢れてしまいます。左の写真は 2021 年 2 月 5 日に撮影したケルン旧市街にある水位計 Pegel で、既に 8 メートルに達し、川岸や遊歩道は水没していました。8メートル30センチになると大型船舶は橋にぶつかるため通行禁止になってしまいます。

こちらは同年 7 月 18 日に撮った写真で、河沿いの遊歩道がすっかり水に浸かっています。この週はノルトライン・ヴェストファーレン州、ラインラント・プファルツ州で雨の日が多く、7 月 14 日には降り止まない雨が土石流を引き起こし、ラインラント・プファルツ州で 130 名以上の方が亡くなる災害が起こりました。

さて、話を日本文化会館に戻しましょう。なぜ日本文化会館が当時の西ドイツの首都ボンでなく、ケルンに設立されたのでしょうか。日本で

は 1934 年に文化交流機関として国際文化振興会が設立され、戦後 1962 年にイタリアにローマ日本文化会館が開設されました。その次に、西ドイツにも会館を開設することになった時、首都ボンは政治の中心、デュッセルドルフは経済の中心であるのに比べ、ケルンは文化都市と位置付けられていたこと、ケルン独日協会が会館の誘致に熱心であったこと、ケルン市も会館のために敷地を貸与する条件を出したことからケルンが選ばれたそうです。日本政府はケルン市から借りた土地に文化会館を 1969 年に開設し、管理と事業運営は国際文化振興会が行っていました。国際文化振興会は 1972 年に外務省特殊法人国際交流基金 Japan Foundation に、更に 2003 年には独立行政法人に編成替えとなりました。ドイツ統一後、しばらくして在独大使館がベルリンへ移転しても、会館はそのままケルンに残り、Japan Foundation ドイツ事務所として活動しています。

初代館長は戦時中、在独日本大使館職員だった大賀小四郎さん、その奥様は天才美少女バイオリニストと言われた諏訪根自子さんでした。歴代館長の中で著名人としては指揮者の大町陽一郎さん、NHK ドイツ語講座に出演していた小塩節さん、上田浩二さん、相澤啓一さんが挙げられます。会館の視察に秋篠宮ご夫妻がいらしたこともありましたが、群馬繋がりとしては、1999 年 6 月ボン・サミットに出席した小淵恵三元総理大臣がお忙しい中、立ち寄られたことがありました。

ケルン日本文化会館の使命は、日本文化の紹介、日本語教育、人物交流などの対話を通してドイツ語圏において日本文化の理解を促進させることです。ここでいうドイツ語圏はドイツ、オーストリア、リヒテンシュタイン、ドイツ語圏スイスですが、場合によってはルクセンブルクを含むこともあります。具体的な活動内容は講演会・シンポジウム・コンサート・パフォーマンスの実施、それから日本関連芸術作品の

展示、日本映画の上映、日本語講座の開講と図書館事業です。これ以外の会館事業としては、日本関連事業・出版事業への助成、そして人物招聘があります。Japan Foundation 海外拠点は 26 か所ありますが、独自の会館を持つのはローマ、ケルン、パリの 3 つの拠点だけで、更に図書館を持つ拠点は 16 拠点です。ほとんどの図書館には日本専門司書が配置されており、メーリングリスト、過去には会議を開催するなど、協力し合っています。

会館図書館とは



図書館は約 170 平米、いわば高校の図書室くらいの広さといえます。図書館の使命は、日本研究者、学生そして日本に興味を持つ方々に日本情報を提供することです。図書館資料は 10 点まで 4 週間借りられ、希望者には 4 週間の返却期限延長を行っています。会員制の有料図書館でなく、無料で利用できます。日本では図書館利用が無料なのは当たり前かもしれませんが、ドイツでは公立図書館でも年会費

を徴収することが許されていますから、来館者の中には無料と聞いて喜ぶ方もいます。

図書館で収集する資料は日本に関するものなら何でもと間口が広いのですが、人文・社会科学系の分野においてであり、自然科学系はドイツの専門図書館に任せています。収集において重点を置いているのは、ドイツ語で書かれた日本社会・文化・芸術関係の資料、ドイツ語訳された日本文学です。2011 年以降、日本語学習教材、つまり日本語教科書、補助教材、参考書、辞典類も重点収集に加わりました。更に日本映画・アニメの DVD とマンガは、日本語学習者にとって生きた日本語会話を学ぶ教材と考えられ、この時期から収集が開始されました。所蔵図書数は約 25,000 冊です。そのうち 60%が日本語、残り 40%が英語・ドイツ語の順になります。視聴覚資料の所蔵 2,000 点の

うち 4 分の 3 は CD と DVD ですが、CD-ROM、LP レコード、VHS ビデオ、スライドも所蔵しています。雑誌は約 130 タイトルあり、日本語と欧米語の比率は半々です。特徴的なコレクションは日本の作曲家の楽譜を約 1,000 点所蔵していることで、ほとんどは日本作曲家協議会から寄贈していただきました。

人気のある分野

日本語教育関係
社会学・比較文化・風俗習慣（ドイツ語・英語）
歴史・地理・旅行ガイドブック（ドイツ語・英語）
マンガ
日本現代文学
日本映画・アニメDVD（ドイツ語字幕付）

図書館利用者に人気のある分野は日本語教育関係で、文化会館で行っている日本語講座の受講生やケルン近郊の日

本語学校で教壇に立っている日本語教師の方が借りていきます。社会学、日独比較文化、日本の風

俗習慣に関するテーマは大学生が論文のテーマとして取り上げることが多く、ドイツ語または英語で書かれたものを探しに来ます。歴史、地理、旅行ガイドブックは学生の他、日本へ旅行したい一般の方々が問い合わせってきます。マンガについては、子供から大学生までの幅広い層が好み、日本人は日本語オリジナルのマンガ、それ以外の方はドイツ語訳されたマンガを借りていきます。日本現代文学についても、日本人は日本語オリジナル、それ以外の方はドイツ語訳された文学書を借りる傾向がありました。本以外では、ドイツ語字幕が付いた日本映画・アニメ DVD が人気です。

貸出と並んで図書館での重要な利用者サービスとしては、参考調査が挙げられます。来館した方から質問を受ける他、電話や E-Mail で日本に関する問い合わせを受け付けています。問い合わせ内容は、大まかに言いますと所蔵調査、情報を持つ関連機関の紹介、日本に関する文献・事項・事実の調査です。調査でいつも困難に感じるのは、蔵書数が少ないために調べる資料、提供する資料が少ないこと、あるいは所蔵していないことです。そうなりますとインターネットに頼らざるを得ません。日本語でインターネット検索するとドイツ人が探しきれなかった情報を得ることができるのですが、探した情報が日本語のみで書かれていると、提供してもいい顔はされません。どうしても、ドイツ人なら自分の母国語であるドイツ語、ドイツ語がなければ英語で書かれた資料を望むからです。問い合わせの内容は 9 割が、具体的な書名を挙げての所蔵調査、あるテーマに関する資料の所蔵調査であり、比較的簡単に答えられます。しかし、残り 1 割の中にはかなり難しい質問があり、小規模な図書館では日本専門と看板を掲げていても回答までたどり着くのに骨が折れます。それについては後でご紹介します。

(次号に続く)

【注記】本稿は 2024 年 1 月 6 日の講演原稿に加筆。2024 年 3 月 9 日脱稿

【主な図書館関係書作】

コラム:ケルンの司書, 徬書月刊, 1994.10-1999.8.

ケルン日本文化会館図書室:ドイツに於ける日本情報提供の場としての役割. 図書館雑誌, 1997.4, vol.91, no.4, p.270-272.

日本資料図書館連絡会の活動とドイツ語圏日本関係図書館の展望. ベルリン日独センター報告集, 2001.3, no.25.

日本情報提供の最前線:ドイツの日本専門図書館からの報告. 専門図書館, 2014.11, vol.268, p.22-27.

COVID-19 禍による閉鎖から再開、そしてその後 ドイツの日本専門図書館の記録. 専門図書館, 2020.10, vol.301-302 合併号, p.56-59.

ドイツの日本専門図書館の取り組み:日独交流 160 周年に寄せて. 大学図書館研究会誌, 2022, no.47, P.43-64.

5. 日本百名山 独訳 - 連載 12

深田勝弥 会員

55 穂高岳 (3190 米) *Der Hotaka-dake (3190 Meter)*

55-01

穂高岳は昔御幣岳ともいった。空高くそびえる岩峰が御幣の形に似ていたからである。また奥岳とも呼ばれた。人里から遠く離れた奥にあったからだろう。梓川ぞいにバスが通じて以来、人人はたやすく神河内(上高地)に入り、そこから穂高を仰ぐことができるようになったが、それ以前は徳本峠を越えねばならなかった。峠に立った時、不意にまなかいに現れる穂高の気高い岩峰群は、日本の山岳景観の最高のものでされていた。その不意打ちにおどろかない人はなかった。幸田露伴も書いている。



Der Berg *Hotaka-dake* war früher *Gohe-i-dake* auch genannt (*Gohe-i*: papierquaste), weil der hoch geragte Gipfel wie Quaste war. Er war auch *Okudake* (Tiefer Berg) genannt, weil er in tief verlassenen Gegend liegen mag. Seitdem die Buslinie den Fluss *Azusa* entlang eröffnet wurde, kann man leicht ins Land *Kami-kohchi* (Gottfluss) eintreten, und von hier nach *Hotaka* aufblicken. Zuvor musste man doch den Pass *Tokugou* überschreiten. Als man sich auf dem Pass aufstellte, ist der Felsenberg plötzlich vor Auge erschienen. Dabei hält man den für besten Aussicht von den Bergen in Japan. Der Schriftsteller *Kohda Rohan* auch schrieb wie folgt.

55-02

「眼の前に開けた、深い広い傾斜、その向こうの巍々たる山、何という男らしい、神々しさをもった嬉しい姿であろう。思わず、知らず、涙ぐましいような心持になって、危うく手を差し伸べたいような気がした。吾が魂に於いて、彼を見たのか、彼に於いて、吾が魂を見たのか、弁えがたいような瞬間であった。」

„Der tiefe und weite Abhang vor Augen. Darüber ist größer und höher Berg. Wie mannhaft, göttliche Gestalt ist er! Der Berg hat mich gerührt, unbewusst beinahe ihm die Hand zu reichen. Ob ich habe ihn angesehen oder hat er mich angesehen, im Augenblick ich nicht unterschied.“

55-03

穂高の名は、岩の秀の^ほ高いところから来たのだろう。秀は穂に通じる。その俊秀な姿から古くは穂高

大明神の山と言い伝えられ、単に明神岳とも呼ばれた。現在では明神岳は、穂高から梓川へ下る岩稜の峰の名になっている。その裾に穂高神社があり、明神池がある。

Der Name *Hotaka* mag von der Höhe des Felsenspitzes gekommen sein. Seine merkliche Gestalt war früher als Berg des Gottes namens *Hotaka-daimyohjin* übergeliefert, und gekürzt auch *Myohjin-dake* genannt. Dieser Name wird heute der Namen vom Felsengrat, der aus *Hotaka* bis Fluss *Azusa* abwärts fließen. Dorthin sind der Schrein *Hotaka* und der Teich *Myohjin*.

55-04

信濃もかつては海であった。わたつみであった。安曇はわたつみの転訛だという。その大綿津見神の御子の穂高見のノ命がこの山に垂跡し給うた、と穂高神社の縁起に記されている。命は安曇の水を治められたので、今でも水の神として祀られている。

Das Land *Shinano* war früher im Meer d.h. in *Watatsumi*. Es ist gesagt, dass der Ton des *Watatsumis* sich in Namen „*Adumi*“ gewandelt ist. Es steht in der Herkunftsgeschichte des Schreins *Hodaka*, dass der Sohn *Hodakamino-mikoto* des Gottes *Owatatsumi* gewohnt war. Denn der Sohn hatte über das Wasser *Adumi* gut regiert, ist er als der Gott des Wassers noch jetzt geehrt.

55-05

そんな風にこの山は大昔から霊岳としてあがめられていた。岩根こごしい山であるから、登拝は困難で、ただ遥拝していたのだろう。近辺の笠ヶ岳や槍ヶ岳が信仰の厚い僧侶によって登頂された後も、穂高だけ残ったのは、むずかしい山であったからだろう。それでも文政丁丑（一八一九年）の夏、安曇郡穂高村の医師・高島章貞は、友人に誘われて登り、その地理を写して、「穂高岳記」という文章を残した。しかしその紀文から推して、彼が頂上に立ったとは考えられない。

Solcherart war der Berg seit Urzeit als heiliger Berg geehrt. Wegen des klobigen Felsens war es schwierig aufzusteigen. Daher wurde der von einem nur angebetet. Nachdem die gläubigen Mönchen den Berg *Kasa-dake* (57) und *Yarigadake* (54) in der Nähe bestiegen hatten, mag der *Hotaka* noch für zu schwierig zu steigen gehalten worden sein. Doch zum Sommer 1819 *Takahashi Akisada*, der Arzt im Dorf *Hotaka* im Kreis *Adumi* war, hat mit seinem Freund hier gestiegen und das Gelände abgezeichnet hat, hat er das Dokument „Über den *Hotaka-dake*“ hinterlassen. Aber aus dem Dokument vermutet, meine ich, dass er den Gipfel nicht erreichte.

55-06

穂高に登った最初の人、明治二十六年（一八九三年）の夏、嘉門次を連れたウエストンであった。もっとそれより二週間前、陸軍省の視察員がやはり嘉門次を連れて登っている。しかしこれらのパイオニアの登頂したのは、今の前穂高であって、当時これが最高点とされていた。

Wer am ersten auf den *Hotaka* aufgestiegen, war Walter Weston. Er hat zum Sommer 1893 ersten mit dem Führer *Kamonji* den bestiegen. Aber der Inspektor von dem Kriegsministerium auch war zwei Wochen zuvor mit *Kamonji* schon aufgestiegen. Der Berg, wo diese Pioniere aufgestiegen waren, war es leider nicht auf den *Hotaka*, sondern auf den heutigen *Mae-hotaka*, denn man hat damals diesen für an den höchsten Berg gehalten.

55-07

明治の末年頃から、日本山岳会の先輩たちが相ついでに登り、それまで一括して穂高と呼ばれた岩峰群に、北穂高、奥穂高、^{からさわ}涸沢岳、前穂高、西穂高、明神岳という風に、それぞれの名称が与えられるようになった。その最高は奥穂高であって我が国第三位である。初登頂は明治39年（一九〇六年）陸地測量の時、それから三年おくれて登山家として鶴殿正雄氏が最初であった。

Seitdem der späten *Meiji* Zeit sind die Älteren des Japanischen Alpenvereins nacheinander auf die gesammelt *Hotaka* genannten Berge bestiegen. Die folgenden Namen wurden jedem Berg gegeben: *Kita-hotaka*, *Oku-hotaka*, *Karasawadake*, *Mae-hotaka*, *Nishi-hotaka* und *Myohjin-dake*. Der *Okuhotaka* ist darin am höchsten und der dritte Platz der Höhe in Japan. Die erste Besteigung wurde 1906 vom Vermessungsingenieur erreicht und nach drei Jahren war *Udono Masao* als erster Bergsteiger aufgestiegen

55-08

大正年代に入ると、穂高は岩登りと積雪期登山の道場になった。三千米のピークが四つもある岩の大伽藍である。当時の前衛的な大学山岳部の若者たちは競ってこの山を目ざした。彼等は次々と新しい登攀ルートを開いて行った。そしてジャンダルムだの、ロバの耳だの、クラック尾根だの、松高ルンゼだのと、西欧アルプス風な名が到る所の岩場に付けられたのは、昭和になってからであった。

In der *Taishoh* Zeit (1912 - 1926) wurde *Hotaka* ein Trainingslager für auf den Felsen oder im Winter aufzusteigen. Der ist eine große Kathedrale mit vier Felsenspitzen 3.000 Meter. Damals zielten die avantgardistischen Studenten und Bergsteiger wetteifernd auf diese Gipfel. Sie hatten nach und nach neuen Routen eröffnet. Es ist erst in der *Schohwazeit* (1926-1989), dass die europäischen Namen den Felsenwänden hier und dort gegeben wurden, z.B. Gendarm, Ohren von Hengst, Gekrachter Kam, *Matstaka* Runse und so weiter.

55-09

こうして大戦までに、この大伽藍の尾根や岸壁や沢筋が、ほとんど探り尽くされた観があった。それでも松方三郎氏が書かれているように、「あの穂高のどこかの一角に三方は断崖で守られ、背中の方もまた絶壁になっていて、よほどのお山の達人でないと寄りつけないような小さな、いわば天狗の踊り場とでもいったようなテラスがあって、その「たな」にたどりついて見ると、そこらあたりは一面のお花畑

でエーデルヴァイスなどが咲き乱れている、などという想像にふけったりするのである。」そんな空想を許すのも穂高のヴォリュームの大きさである。

Solcherart bis zum Ende des Weltkriegs wurden fast alle Grate, Felsenwänden, und Gebirgsbäche in der großen Kathedrale deutlich geforscht. Dennoch ist wie Herr *Matsukata Saburoh* geschrieben: „Irgendwo in *Hotaka* ist die kleine Terrasse, die aus drei Richtungen mit den Felsenwänden, und den Rücken auch mit der Steilwand geschützt ist. Deshalb kann nur der Meister von Aufsteigen eintreten. Wenn auch er dort erreichen würde, wäre diese Terrasse so eng, wie Tanzplatz des Bergesgeistes. Aber es ist hier die Gegend, wo der Edelweisse voll blühende Garten ist.“ Der *Hotaka* ist so groß, dass er jeden vorstellen lässt.

55-10

終戦後は冬季の岩登りが盛んになって、正月休みなどには多くのパーティがあちこちの氷壁をねらって、果敢なアタックを試みるようになった。そしてもはや冬季初登攀のルートさえ無くなったようである。

Nach dem Krieg ist das Bergsteigen im Winter geblüht, begannen viele forschen Gruppe im Neujahrsferien auf den Felsenwänden hier und da zu klettern. Und keine neuen Routen im Winter mögen mehr sein.

55-11

おそらく山岳団体に属する人で、涸沢生活の経験を持たない人はないだろう。夏には幾十というテントがそこに並び、グリセードや岩登りの訓練に出かけて行く。穂高はアルピニストのメッカとなった。

Die Personen sind nicht kaum, die ein Mitglieder des Gebirgesvereins sind und das Leben auf *Karasawa* eine Nacht erbracht. Im Sommer liegen zu einig zehn Zelte, und daraus gehen die Bergsteiger, um die Glissade mit dem Eispickel oder das Klettern auf der schneeigen Wand zu trainieren. Der *Hotaka* ist das Mekka für Alpinisten geworden.

55-12

しかし、そこで永遠に眠った人も多かった。大島亮吉も、茨木猪之吉も、穂高を墓にした。近年は冬季登山に毎年のように犠牲者を出している。小坂乙彦も死んだ。魚津恭太も死んだ。死ぬものは今後も絶えないだろう。それでもなお穂高にはそのきびしい美しさで誘惑しつづけるだろう。

Aber viele Personen sind ewigen Ruh eingegangen, *Ohshima Ryohkichi* und auch *Ibaragi Inosuke*. In den letzten Jahren geschehen Opfer jedes Jahr. *Kosaka Otsuhiko* und *Uozu Kyohta* sind umgekommen. Die Opfer mögen von jetzt auch nicht weg sein. Dennoch musst der *Hotaka* uns zu seiner strengen Schönheit noch immer verlocken.

山もみじ 穂高一髪 白きかな

勝弥

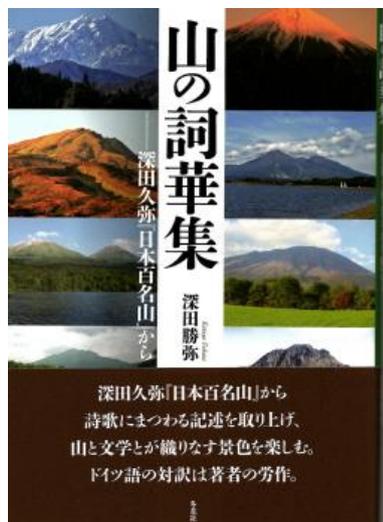
Die ferne Herbstfärbung,
drüber liegt feiner Neuschnee
auf Berg *Hotaka*.

Katsuya

Feb. 2024

事務局註：深田勝弥会員は、作家故深田久弥氏の甥という関係から名著「日本百名山」の独訳に挑戦されました。北海道から南下しながら掲載しますが、百座を網羅する時間とスペースがないため一定地域に偏らないように選択しながら進めておりました。一旦 62 号で完と区切りを付けましたが、もう少し続けていただけたこととなりました。

なお、深田会員が5年かけてドイツ語版を完成させた経緯が、故深田久弥氏の地元の北国新聞（2020年10月25日付）、上毛新聞（2020年11月18日付）、朝日新聞（2020年1月17日）に紹介されました。



初版刊行後、電子書籍での発行を薦められ、昨年には「日本百名山」の詩 と表題がつけられて電子書籍でも発行されました。

なお、電子書籍での発行につきまして産経新聞（2023年11月19日）に紹介されました。

書籍紹介 電子書籍

「日本百名山」の詩

深田久弥の文学を写真とドイツ語対訳で味わう

著者 深田 勝弥

あの名作を、詩歌から愉しむ…
深田久弥の「日本百名山」は、独特の感性と魅力的な文体で多くの人を山へと誘った日本の登山文学における不朽の名作である。本書は同氏を伯父に持つ著者が、このあまりにも知られた名作の中から詩歌に関する記述を抜粋し、山の写真とドイツ語対訳を付して、すこし趣の異なる楽しみ方をご紹介するものである。口ずさんで詩歌を味わうもよし、山行のお供にするもよし、深田久弥の文学世界を堪能できる一書として全ての愛好家にお薦めする。

◎出版社/20世紀アート
※Kindle版/2170KB
※定価/1,000円(税込)

amazonで
お求め下さい

ぐんま日独協会事務局に深田会員から頂きました「山の詩華集」がございます。

貸し出しもできます。貸し出しご希望の方は事務局へご連絡ください。

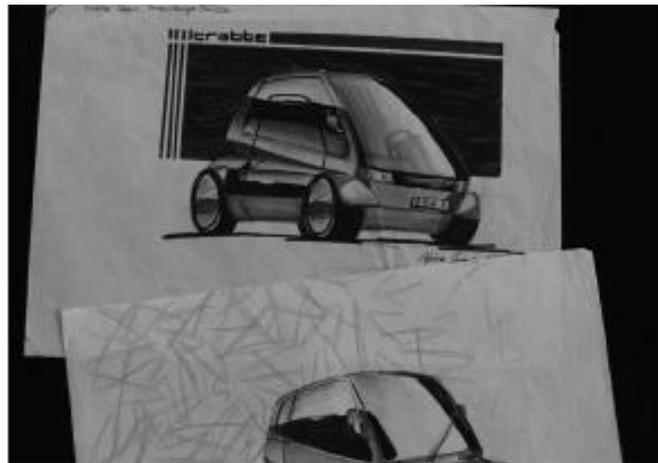
デザイナー修行奮闘記 - 連載 21

井上晃良 会員

オール教授の言葉

毎週木曜日と金曜日にKFZ 校舎では丸1日プロジェクト授業がある。と言っても、教授がスタジオに出ずっぱりという訳ではなく、授業の最初に顔を出して学生全体に少しばかり評価要点などを話したり、また学生が作品の制作を始めると、回って来て学生にアドバイスをしたり、時に議論をしたりする。時間に縛られることもほとんどない自由で闊達な雰囲気の中で授業が進んでゆくのである。

私は、まず課題の電気自動車のスケッチを描いて教授に見せることにした。まだコミュニケーション能力が足りない私が教授から何かしらアドバイスを貰うには、見せるものを用意しなければ話にならない。ある日、オール教授がスタジオに居るところを捕まえて A4 サイズにマーカーと色鉛筆で描いた数枚のスケッチを見せた。そのスケッチは、コンセプトから造形へ導きながら描いたというものではなく、取りあえ



ず課題条件を満たすように適当に短時間で描いたラフスケッチである。すると、彼はしばらくスケッチを眺めてから、こう私に告げたのである。これは「盆栽自動車だよ…」と。私は面食らった。彼は私に何を言いたいのか初め理解できなかったからである。彼は続けた。「このスケッチは、普通の自動車を小さくしただけ。私が電気自動車のデザインを課題に選んだのは、電気自動車のためのデザインを求めているのだよ。だから、君のスケッチは盆栽自動車なんだ」

改めて自分のスケッチを眺めて、オール教授の「電気自動車に対する思い」に自分の描いたスケッチが全くそれに応えていないことに気がつき、それを恥じたのである。と、同時に私のスケッチから、私がこの課題に取り組む姿勢を見透かされたことに対して、言葉を話さないスケッチでも制作者の心まで見ることのできるオール教授を尊敬に値する人間であることを悟ったのである。彼は日本の「盆栽」という最適な言葉を使ってドイツ語のコミュニケーションのおぼつかない私に、私の作品が抱えている問題を理解させたのである。私が彼に全幅の信頼を寄せることができたのは、この大学に入学し学ぶことができた最大の幸運であった。

このことを通して、私は「盆栽」ではない、電気をエネルギー源として移動できる小型自動車のデザインに向き合うことができたのである。またクラスメイトのウルリケや別の課題に取り組んでいるクリストフらとも色々議論しながら、私にとっての電気自動車の姿を具体化させてゆくことができたのである。

その後、新たにスケッチを描きながら試行錯誤を重ね、途中オール教授からもアドバイスを貰いつつ、

どうにか私なりの電気自動車の造形ができた。それをモデルで表現する段階に入ったのが、授業開始から6週間ぐらい経ったころであろうか。

プロダクトデザインで重要なことは、あらゆる媒体を駆使して自分のデザインを訴求させることに尽きる。いくら素晴らしいコンセプトを持っていても、それを第三者に理解させられなければ無意味となる。つまり、スケッチだけでは難しく、必ずスケールモデルが必要である。それは世界中のデザイン学校や実務の現場でも同じことである。今回の授業では 1/5 スケールのクレイ(粘土)モデルが提出物の一つである。日本で学生時代は、もちろんモデルも制作したのだが、インダストリアルクレイは使ったことがなく、就職してから会社で初めて扱った素材である。この授業では、それが要求されるのであるから、卒業すればデザイナーとして即戦力になるのは間違いない。私自身2年半ではあったが、毎日クレイと格闘していたこともあって、モデリング作業は比較的容易に進めることができた。会社にあるような計測器はなかったが、基本的なモデリング手法やツールはほぼ同じなので、少なくとも経験で他の学生よりは仕事も早く進めることができた。しかし、講義の授業は相変わらずで、この地方独特の方言もあって授業への理解度は良い状態とはとても言えない事態は相変わらずである。

クレイモデルが完成すると、タイヤやホイール、ヘッドライト、取手のパーツを発泡材やアクリル板から作り出す。これらは工作機械が必要である。スタジオの奥には工房があり、必要な工作機械や手助けしてくれる技術員もいて、それらは日本の美術大学と同様に一通り揃っている。また、クレイモデルは粘土色なので塗装を行う。その前に下地を作る必要があるため、薄めた石膏を吹き付け、表面を平滑にし、サフェーサーと耐水ペーパーで仕上げる。最後に自動車用カラーズプレーで塗装するという手法である。

学生と教諭との距離

ある授業時にオール教授は一人の知人を連れてスタジオに入って来た。彼はミハエル・コンラートというデザイナーで、オール教授の友人である。彼は、オール教授と共に制作途中のクレイモデルを見て



回っている。比較的入口の近くで仕事していた私の作品を前にした二人は急になにやら議論を始めた。彼らは私が既にオール教授にゴーサインを貰ったコンセプトとデザインについて、私のモデルを前に真剣に議論を展開しているのである。私は、学生時代から実務に至る迄、このような状況を体験したことがなかったので驚いたと同時に、学生の作品に対して真剣に語り合う二人の姿を通

して、これは彼らのためにも作品制作をおろそかにできないことを悟ったのである。もちろん彼らは、私の作品に対してある程度の期待を持っていることも、この件で私は充分理解できたのである。

何より、学生と教授の間にある上下の距離感を日本の大学では感じていたのだが、ドイツの学生と教授の間には、その距離感が日本に比べて非常に近いと感じたのもこの瞬間であった。

後に、別の授業でのことであるが、数名の学生が授業に対して不満を持った時、その授業を履修して

いる学生全員と担当教諭を集め、(紳士的に)不満と要望を教諭に対して表明したことも経験して、学生の強さや妙な遠慮のない師弟関係を肌で感じたのもこの大学で学んだ1つである。

さて、オール教授が連れて来たコンラート氏は、ウルム造形大学在学時の1965年に、カーデザイナーで知らぬ者はいないであろう「AUTONOVA FAM」と呼ばれる世界初のファミリーバン自動車をデザインした人物である。その後も彼はたびたびKFZ校舎のスタジオを訪れ、私達にアドバイスを与えてくれた。彼がいつも乗ってくるクルマはアウディの前身であるNSUが開発したロータリーエンジンを搭載したROで、その美しいサイドシルエットは、今のアウディ80セダンにも受け継がれている。

(完)

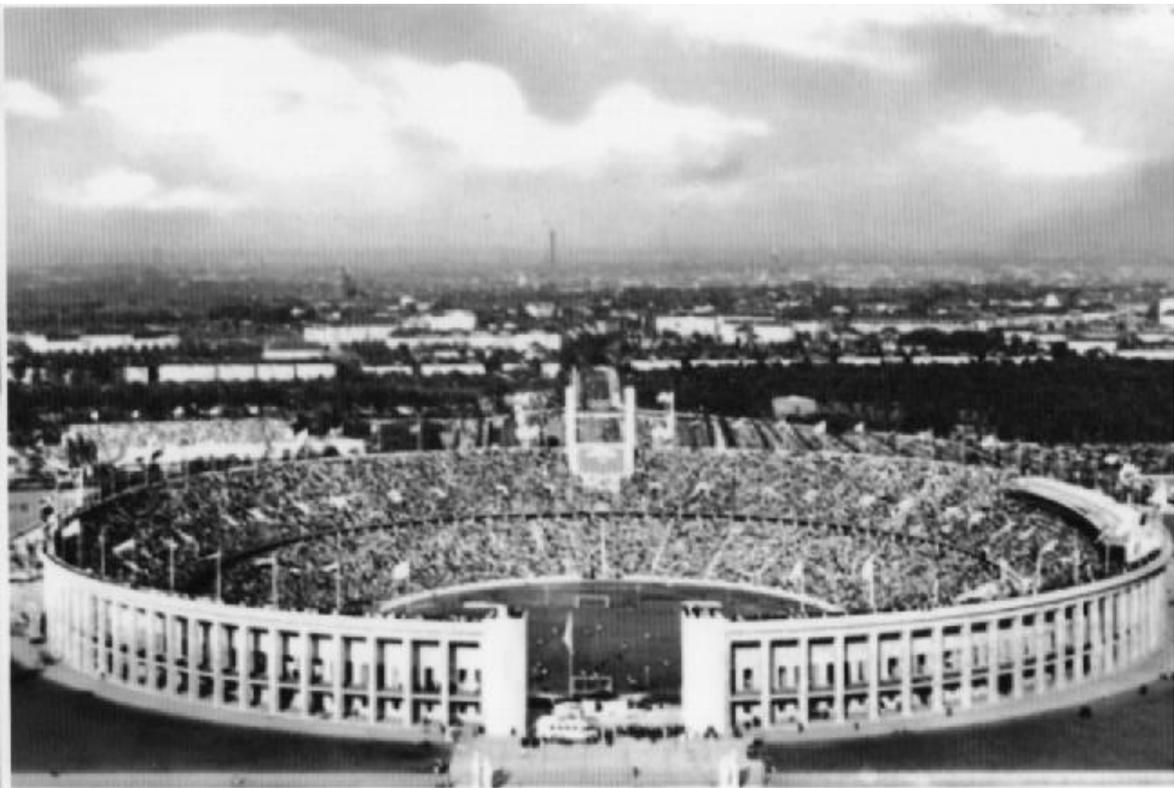
(本記事はイカロス出版株式会社発行『鉄道デザイン EX 06』に連載されたものを転載したものです。同社のご好意により転載の許可をいただいています。)

7. 私の遠く過ぎ去った時代とドイツ(1)

笠原浩一郎会員

私の父は足利の片田舎で従業員 30 名ばかりの小さい燃系工場を営んでいました。怒った顔一つ見せたことの無い、ひ弱で優しく、小心者の彼が狂信的なヒトラー信奉者であったことをいつも奇異に感じ、何故そうなったのか？私は未だに理解も納得もできていません。1933 年は、ドイツではヒトラーが首相に就任した年で、私がこの世に生を受けた年でもあります。その後の日独伊同盟など第 3 帝国への発展とつながり、1945 年の敗戦までの期間は、そう、丁度、私の幼少期に当たります。工場の片隅で父はドイツに関する本を片手に、得々と如何にドイツが優れているかを語ります。アーリア民族の矜持を挺に、ヒトラーが国の意思統一を図る姿は賞賛的でした。なかでもヒトラーユーゲントの話は何度も聞かされました。祖国愛とナチスのイデオロギー下、一系乱れぬ美しさで展開されている青少年の活動ぶり、日本も同じ組織を作るべきだというのが父の持論でもありました。自宅の居間には、いつもキンダーブックという絵本が散らばっており、やはりドイツ賛美の内容が多かったように記憶しております。

又、小学校が国民学校へ名称が変えられた頃だったでしょうか、学校上げて町の映画館で見せられた 1936 年開催のベルリンオリンピックの記録映画「民族の祭典」は、体が震えるほど感動したものです。



1936 年ベルリンオリンピック会場（ドイツ映画「民族の祭典」より）

信じられないような巨大なスタジアム、ヒトラーの甲高い声の開会宣言で始まり、荘厳ともいべき各国選手の入場、小さな集団で小柄な日本選手団と日の丸、観衆が一斉にヒトラー式の敬礼「ハイルヒトラー」で盛り上げる光景を身じろぎせず見入ったものでした。爾来、私の心の中にかっしりと重く、そして心地よく居座り続けるのが“ドイツ”そのものであります。

ヒトラーに関しては世間の評価と違い、私は今までに一度も彼を“悪魔や蛇蝎(ダカツ)”のようには思ったことはありません。むしろ、自らの信念を貫き、潔く自決した英雄と考えており、悪事の極限のように言われている“ホロコースト”(ユダヤ人大虐殺)も、それは歴史的な帰着であり、ユダヤ人側の責任が大きいと考えているのです。

古くからあるキリスト教徒とユダヤ教徒の確執については、嘗ては書物に拠ってのみしか知りえませんでしたし、その根深さについては、如何せん、我々異教徒には単なる知識の域を出ません。その真の姿、信ぴょう性はやはり体験でしか得られないと私は考えます。以下、私には二つの実体験があります。

私の時代は小中学の学園祭の出し物の中で、屢々、取り上げられる人気の演劇にシェイクスピア原作「ベニスの商人」があります。ストーリーが簡単明瞭で幕切れの意外性が痛快です。裁判官ポーシャには可愛い頭の良い女子学生がなり、理不尽なユダヤ人の金貸しを咄嗟の機転でやっつける物語で、それによって我々はシェイクスピアの時代から、高利貸やユダヤ人が人々から憎まれている存在であることを知りました。

もう一つは、私がベルリン大学留学を終えて、暫くして思い出を辿るつもりで東ドイツを旅行した時の体験です。ライプツィヒでバッハが音楽監督を務めた聖トーマス教会を旅行した時、そうだ!この地はメンデルスゾーンがライプツィヒ音楽院を設立したり、ゲバントハウス管弦楽団の指揮者だったりして、この町の音楽の功績者であることを思い出しました。私は明るく品の良い、バランスの取れた彼の音楽は好きでしたし、町の人に気軽に、誰彼となく、彼の話を持ち掛けたところ、驚いたことに、皆、硬い表情で話に乗ってくれないのです。後で知ったことは、彼の父が裕福なユダヤ人銀行家で、れっきとしたユダヤ人であるためと知りました。



オリンピック開会式における得意満面のヒトラー総統(ドイツ映画「民族の祭典」より)



東ドイツ(DDR)時代のライプツィヒ、聖トーマス教会のバッハ像の前で

今、思い巡らすことは、アメリカの十分な最新鋭兵器の支援を受けたイスラエルとパレスチナの非力な武装組織ハマスとの戦争です。ご存じのように結果は明白です。問題は、イスラエルが平然と無辜(ムコ)のパレスチナ民間人を殺害している点です。ナチスを非難することはできないのではないのでしょうか。

(続く)

8. ChatGPT などの AI 利用の勧めと落とし穴

—— 情報工学と科学史の視点から

長井宏之 会員

A

今、世は AI でもちきりである。バラ色の記事やニュースを日々に見るにつけ心も踊る。これは原子力やパソコン、インターネットの出現にも比されるほど世の人々を興奮させている。試してみるとこれほど面白く楽しく便利なものも滅多に無かろうと感じた。これさえあれば、学生の学業も勤め人のビジネスもすすいと進みそうである。筆者などは毎日朝から晩までパソコンにしがみついて中毒しそうな予感がする。こんなステキなものは皆様にも一日も早く操作を覚えて豊かな生活を享受して頂きたいと思うのである。

新聞には毎日どこかに AI の記事が見える。中でも生成系と呼ばれるジャンルの ChatGPT が突出して多い。(※1)

筆者の目には、多くの方々が ChatGPT に大いに関心を持ち、内容を知りたがっている反面、口では ChatGPT と言いつつも、実は ChatGPT に限らず、その他の生成系 AI 技術、時には AI 一般の成果などを混用・混同している、と映る。厳密な狭義の ChatGPT だけを知りたい、というよりむしろ一般 AI までも念頭に置いた上での世の“ChatGPT 現象”に興味・関心があるのであろう。そこで、本稿では狭義・広義を適宜に織り交ぜ、また肝心のドイツ語への応用も念頭に置きつつ以下にその辺りを述べる方針としよう。

ChatGPT の実際にはご自分で体験することが最良であることは言うまでもない。さらば筆者のこの解説を読む必要も薄れるが、その前に YouTube などで見学することが手取り早い。

その一方で、ChatGPT の概略は昨今頻繁に見かけるのでご存知の方も多いただろうから、ここでは同種の BARD (評価版) を取り上げることで、知識の幅を広げることにしよう。機能や守備範囲、手法などは異なるものの、両者に本質的に大きな違いはない。(※2)

取り上げる内容にはすべて ChatGPT、BARD などの、当時の無料版の機能に限定し、(※3)

画像処理を避けて文字情報のみの AI 作業に限って情報工学と科学史の視点から、以下に、①②③の3例を取り上げて述べよう。(※4)

————— 註: 本稿で用いた条件など

(※1) 他のマイクロソフト社の Bing や google 社の BARD (吟遊詩人、の意) などほぼ同様なものとしてよい。OpenAI 社商品名 ChatGPT が突出して先行しているので今や同種のもの(多数ある)を世間では ChatGPT と言い一般名詞的に代表させている感がある。(類例: セロテープ。これは某社の商品名。本来はセロファンテープ)

(※2) 以下には本質を失わない範囲で、BARD を材料に、生成系の AI を論じたい。

BARD は 2024 年の 2 月に GEMINI となって改訂版とされた。しかし画像生成に関して不具合が生じた、とすぐに中断、画像以外で運用された経緯がある。

(※3) 以下は 2023 年 6 月或いはそれ以前のデータである。情報世界は猛烈な速度で進歩改良されているので、この記事もすぐに旧式になってしまうことは必定。ゆえに少し以前の、今では古い情報となるもののほうが評価が確定しておりここでは却って好都合である。

(※4) 本稿は私観に基づく記述であることをお断りしておきたい。

B

ChatGPT などの生成系 AI は、作文に、検索に、御用聞きに、語学に、プログラミングに、果ては事務作業の助手に、と八面六臂の大活躍で、あたかも万能の救世主の如くに言われているから世間では多くの人々が生成系 AI に関する知識を得ていることだろう。その結果、この技術の発展はバラ色の将来をもたらしてくれる、と夢は膨らむ一方であるといえるのではないか。

そこで、以下に暫く、その夢を広げてみよう。

①**ビジネスマンの夢**: 会社の机上の仕事が楽になる。今までは締切間際に悪戦苦闘して上申書を作成していた。AI に指図すると何と、3 秒か 5 秒か、あっという間に模範的な美文の書類ができています! しかも会社指定の書式の通りに書けている。こりゃエエわ、と言いたくなる。

②**学生の夢**: 経済学の教授が難しい課題を出してきた。明日が締切だというのに半分しか出来ていない。課題文も参考資料も苦手な英語で書かれている。単位取得は絶望的だ。苦し紛れに AI に翻訳させてみた。1 ページ訳すのに 2 秒くらい、手間を入れても 10 頁の課題文も 5 分とかからない。そこで課題を AI に解かせたら、何と数秒で模範答をばっちり書いてきた。しかも教授指定の形式になっている。これをこのまま印刷して提出すればいいから、もう遊んでいられる。

③**主婦・主夫の夢**: 夕飯の調理中に作り方が分からなくなった。AI に尋ねたら瞬間にレシピとコツを教えてくれた。丁寧にもレシピのあちこちの部分の解説や注意点まで書かれている。こんな素晴らしいものとは知らなかった。

他にも応用例はいくらでもあるので**想像するだけでもワクワク**してしまう。

C

どうです? これらを見れば ChatGPT や BARD などの AI を使わない手は無いと痛感したのではありませんか? 私自身を含め、皆様にも大いに **AI の使用をお勧めしたい**と思う次第である。

さて、ふと考えた。①の**ビジネスマン**、そんなに簡単に作業ができて時間が余れば会社は彼を雇用しておくか? 人員整理するのではないか。AI さえあれば彼は要らないだろう。

②の**学生**は、丸投げレポートを教授はつとに知っていて、そんな学生は落第点を食らうだろう。

③の調理人では、やがて AI 内蔵の調理ロボットの普及で調理係員が不要になるかもしれない。

◆ 新式の科学技術に職を奪われる、と怒りまくった手工業の労働者たちが、工場や機械の打ち壊し運動をしたのが 19 世紀初頭英国の科学技術史上に残るラッドライト運動である。今また歴史は繰り返すのか、夢の AI の使用にはリスクもあるのか？ 今度はその点を調べてみようではないか。

D

◆ 次の実例を検討しよう。まずドイツ語文章を見る。

[Erklärung] Auch wenn Shinkansen nicht durch Kiryu geht, werden wir falsch antworten, wenn wir es nicht wissen. Um vom Bahnhof Kiryu in den Shinkansen einzusteigen, müssen Sie etwa 50 Minuten mit der JR-Linie nach Takasaki fahren. Für diejenigen, die die Geographie rund um den Bahnhof Kiryu nicht kennen, ist es unmöglich, diese Lüge zu durchschauen. Wenn dies eine Kriegssituation wäre, könnte ein Kapitän, der glaubt, dass die Antwort der AI richtig war, seinen Soldaten befehlen, „am Shinkansen vorbeizufahren“.

この独文は頁の下段の★印の 4 行の文章を独訳して私がちよいと片手間に作ったものである。出来栄えは如何だろうか。多少ぎこちないかもしれないが、“結構良く出来ている、この筆者はかなりの実力があるな”、と感心し、妬ましいな、と思ってしまったのではないだろうか？

実は作ったのは私だが独訳をしたのではない。AI に和文独訳させ、ここに貼付けたのである。

AI は瞬時に 1 秒とかからず!! 独訳してしまった。驚異的な実力だと言わねばなるまい。

◆ では次の質疑応答をご覧ください。実際に、質問し、AI に答えてもらったものである。

◆ 問 1。 群馬県 桐生市 から 八王子に 鉄道で行きたい。 最小時間で行くには どういう経路がありますか？

● その答。 桐生市から八王子市への最短鉄道ルートは、
まず、桐生駅から JR 上越新幹線で東京駅まで行きます。
次に乗換えて東京駅から JR 中央線で八王子駅まで行きます。

====

◆ 問 2。 前問の回答で、 ”桐生から JR 上越新幹線で 東京まで行く” とありますが、 桐生から 新幹線が出ているのでしょうか？

● その答。 申し訳ありません。桐生から新幹線は出ていません。

★【解説】桐生には新幹線などは通っていないのに、我々が知らなければ誤答のまま通す。桐生駅から新幹線に乗るには、50 分くらいは JR 線で高崎まで移動しなければならない。桐生駅周辺の地理を知らない人にとって、この嘘を見破ることは不可能である。これが戦時下であれば、AI の回答を正しい、と信じた隊長が “新幹線で移動せよ” と兵士たちに命令しかねない。★

◆ 相手が気づかなければデタラメを押し通し、シラを切るパターンで、これは真に恐ろしいことであり、まさに AI の脅威である。しかし実はもっともっと深刻・恐怖な実例が多々ある。虚偽を見破る確かな実力が無いと世の破滅を招く。その容赦ない情景を次号にお見せしよう。そして対策例を情報工学と科学史にヒントを得て示そう。

2023 年度国際交流報告あれこれ

渉外(大使館・国際交流)担当

1、共愛学園小学校での授業

2023年7月6日(木)14:35~15:20

講師:ドイツ大使館文化部 ホーボルト 幸夫氏

対象:4年生 教育課程の中の国際理解教育

(教育課程の一コマに位置づけ)

授業後、4年生児童全員が大使館絵画展に参加しました。

児童がとても生き生きと楽しそうで講師の発問に対し活発に発言していました。

児童へのプレゼントとして学級文庫用に「ドイツのことは図鑑」をいただきました。



2、大使館文化課長沼田市講演と草津町表敬訪問

2023年10月29日(日)14:00~沼田市

演題:「困難な時代における日独友好」

講師:ゼーンケ・グローゼン氏

(ドイツ大使館 文化課長)

午前中には沼田市の吹き割の滝を訪問され日本の秋を満喫されました。

10月30日(月)9:30~草津町長を表敬訪問され、

その後、町の職員の方の案内でベルツ博物館と西の河原にあるベルツ博士、スクリュバー博士の銅像を訪れました。



3、前橋市立前橋高校での講演

2024年3月7日(木)14:30~15:20

講師:ドイツ大使館文化部 ホーボルト 幸夫氏

大使館研修生 アリーナ・ヒューバー氏

対象:1年生 239人

演題:「SDGs 上位国ドイツとは、ドイツと日本のつながりとは」

学校訪問の前に前橋市教育委員会教育長を訪問をしました。



共愛学園小学校に寄贈された本のご紹介

言葉からドイツの文化を広く知ることが出来、とても興味深い本です。



大使館の HP の Young Germany Japan を開くと「今週のドイツ語」が載っています。そこに連載されたコラムが本になったものです。楽しくかわいいイラストとともに「暮らし」や「文化」だけでなくドイツ語の言い回しや、語源や由来なども楽しみながらドイツを学ぶことができます。

KADOKAWA
野口真南(著)、加茂光和子(イラスト)
(税込み 1870 円)

11月8日の上毛新聞掲載(前橋市立前橋高等学校での大使館職員の講演)

環境に配慮した事例や日本との共通点を話すホーホルトさん(左)

再エネ政策など ドイツの例紹介

市前橋高にホーホルトさん

SDGs先進国のドイツが1年生約2400人に学ぶ特別授業が、活用が進む再生可能エネルギー政策の背景など同国の環境に対処する姿勢を伝えた。

同日は2021年時点で、再生可能エネルギーに占める発電が総電力の4割超を占め、30年には8割を目標にする。昨年、国内の原子力発電所の運転を停止したことも伝えたホーホルトさんは「化石燃料はロシアなどからの輸入に頼らざるを得ない。安全保障の点からも有効」と解説した。

授業は、同高のグローバル教育の一環。同大使館の研修生、アリナ・ヒューバーさんが助手を務め、ぐんま日独協会(鈴木嘉彬会長)が協力した。

(北沢彰)

大使館絵画展報告

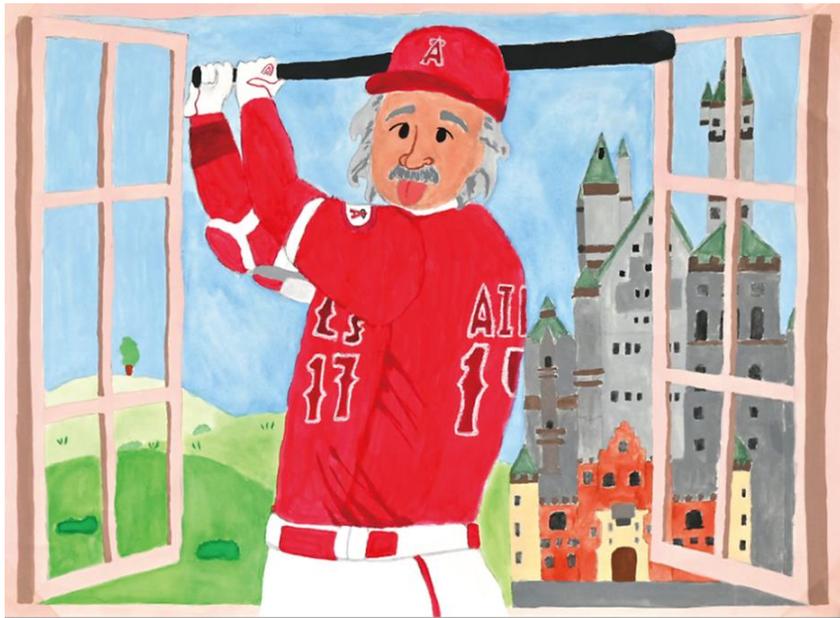
大使館絵画展担当 O

16回目を迎える今年のテーマは「ドキドキ ドイツ」

児童・生徒のみなさんが想像するすてきな「ドキドキ ドイツ」が集まりました。

今回の絵画展には全国から585点(小学生の部433点と、中学生の部152点)の応募があったそうです。群馬県からは共愛学園小学校と沼田市立北小学校から91点、前橋市立第六中学校や前橋市立明桜中学校、そして沼田市白沢中学校からと個人応募2点の60点、合わせて151点の応募がありました。

その中から共愛学園小学校6年 茂木 莉音さんの作品(題名「Einen schönen Tag」)が小学校の部第3位を受賞しました。



11月23日にあった大使公邸での授賞式ではクレーメンス・フォン・ゲッツェ大使から直接表彰をしていただきました。

また、11月23日にはオープンデーが開かれ、応募された作品の一部が大使館のアトリウムに展示されました。群馬県からたくさんの児童・生徒のみなさんがご家族と共に大使館を訪れてくださいました。

ご協力いただきました保護者、学校関係者、その他の皆様方に感謝申し上げます。

……お知らせ……

2023年の大使館絵画コンテストに群馬県内から応募した作品(151点)の展覧会を開催いたします。

場所:前橋市中央公民館3階ホワイエ

日時:5月31日(金)から6月5日(水) 終日(最終日は4時まで)

詳細につきましては後日お知らせいたします。

ぜひ、県内小・中学生の楽しい素敵な作品の鑑賞にお出かけください。

京都と東京の生活

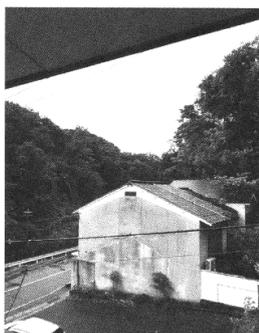
公益財団法人日独協会研修生 ダヴィット・マイヤー



研修生のコラム ダヴィット・マイヤー (日独協会研修生)

10月号のDie Brückeのインタビューを読んだ方は、私が一年間日本に住んでいたことをすでにご存知でしょう。同志社大学に留学していた時、京都にいました。東京に来てもう3ヶ月ですが、京都の滞在と比べて結構異なります。

留学当時、京都市の東(東山の方)にある蹴上(けあげ)に住んでいました。アパートは坂の上、森の近くにありました。周りには、同じ建物の住人と数少ない隣人以外ほとんど何もありませんでした。朝には鳥や猫があらわれて、さえずりや鳴き声が聞こえました。ベランダにカエルがいたこともありました。それとは対照的に今のアパートで朝早く聞こえるのは、山手線の音です。都心に住むのには長所と短所が両方あります。駅近くに住んでいるので、早起しなくてもいい



京都のアパートから見えた風景



ベランダに遊びに来たカエル

いですが、時々、日中家の近くを走る電車、アナウンスやそばを歩く乗客達の騒々しさを無視するのが難しいです。それでも、深夜は電車が来ないのでぐっすり眠れます。留学時には、そのような問題がありませんでしたが、そのかわりに駅まで10分も歩かなければいけません。最寄りのコンビニやスーパーはもっと遠かったです!今では考えられないことです。多くの店まで5分かかりません。でも、将来日本に住む機会があれば、都心から少し離れたところに住んだ方がいいと思います。そのために通勤時間が長くなって構いません。

たくさんの古い建物や神社仏閣が京都に全く違う雰囲気を与えています。目的なく、ただ通りを歩きながら街の景色を見るのが楽しかったです。東京でもよく散歩しますが、大都会を歩くのはまた違う感じがします。東京が印象的ではないと言うわけではないですが、東京は他の魅力を持っていて、個人的に京都の方が好みます。

東京は、京都やドイツの故郷と比べて忙しく感じますが、そのことにも慣れるかもしれません。

Mein Leben in Kyoto und Tokyo

David Meier (Praktikant der JDG)

Wer das Interview mit mir in der Oktober-Ausgabe gelesen hat, weiß schon, dass ich schon einmal für ein Jahr in Japan gelebt habe. Für mein Auslandsjahr an der Dōshisha Universität war ich nämlich in Kyoto. Jetzt bin ich schon fast drei Monate in Tokyo, und ich muss sagen, mein Aufenthalt in Kyoto war doch ganz anders!

Ich habe damals in Keage gewohnt, was im östlichen Teil von Kyoto liegt, in Richtung Higashiyama. Mein Apartment war auf einem kleinen Hügel direkt neben dem Wald. Um mich herum gab es, außer den anderen Bewohnern und wenigen Nachbarn, fast nichts. Ich konnte morgens also oft Vögel und Katzen sehen und hören. Ich hatte sogar einmal einen Frosch auf dem Balkon! Im Gegensatz dazu ist es jetzt die Yamanote-Linie die ich morgens hören kann. So zentral zu wohnen hat seine Vor- und Nachteile. Mein Weg zum Bahnhof ist sehr kurz und ich kann morgens etwas länger schlafen. Tagsüber ist es manchmal schwierig, die laut vorbeifahrenden Züge, Ansagen am Bahnsteig und vorbeilaufenden Fahrgäste zu ignorieren. Immerhin fahren die Bahnen nachts nichtmehr und ich kann ruhig schlafen. Dieses Problem hatte ich damals nicht, ich musste dafür aber ungefähr 10 Minuten laufen, um zur nächsten Station zu kommen. Zum nächsten Supermarkt oder Konbini war es sogar noch weiter! Das kann ich mir jetzt gar nicht mehr vorstellen. Die vielen Einkaufsmöglichkeiten und Restaurants liegen weniger als 5 Minuten entfernt. Wenn ich in Zukunft die Gelegenheit bekomme, hier zu leben, dann würde ich es wahrscheinlich bevorzugen, etwas außerhalb des Stadtzentrums zu wohnen. Dafür würde ich auch einen etwas längeren Weg zur Arbeit in Kauf nehmen.

Die älteren Häuser und vielen Schreine und Tempel in Kyoto geben der Stadt auch eine ganz andere Atmosphäre. Ich habe es oft genossen, einfach so durch die Straßen zu laufen und mir die Umgebung anzusehen. In Tokyo bin ich zwar auch schon Spazieren gewesen, aber es fühlt sich anders an in der Großstadt unterwegs zu sein. Damit möchte ich nicht sagen, dass Tokyo nicht auch eindrucksvoll ist, allerdings auf eine andere Art, und persönlich gefällt mir Kyoto in dieser Hinsicht besser.

Es fühlt sich alles viel beschäftigter an als in Kyoto oder zu Hause, aber daran gewöhne ich mich wahrscheinlich auch noch.

(公益財団法人日独協会機関紙「架け橋」2024年2月号より許可を得て転載)

編集後記

「第9回ドイツフェスティバル in ぐんま」テーマ「ひとあし早いあなたとドイツのクリスマス」4年ぶりに2023年10月21日(土)22日(日)群馬県庁一階県民ホールにて2日間開催されました。秋空の下多くの方にご来場頂きました。

今号も心に刻む時の素晴らしい記事を、心を込めて編集させて頂きました。

表紙は共愛学園中学・高校吹奏楽部の生徒さんの素敵演奏の風景です。

連載や寄稿をお寄せ頂きました会員の皆さまに心より感謝申し上げます。

ぐんま日独「会報63号」お楽しみいただけましたら幸いです(Ito)

問い合わせ先・参照先

ホームページ

<http://www.jdg-gunma.jp/> (会の様子、会則、活動状況)

フェイスブック Facebook

<https://www.facebook.com/JDGGunma>

ツイッター Twitter

<https://twitter.com/JDGGunma>

インスタグラム Instagram

<https://www.instagram.com/JDGGunma?ref=badge>

電話・FAX

027-288-4297

QRコード



ホームページ



フェイスブック



インスタグラム



電話・FAX



ツイッター